

## 株主メモ

決算期  
定時株主総会  
配当金・中間配当金

毎年3月31日に決算を行います。  
毎年6月下旬に開催いたします。  
利益配当金について3月31日現在の株主に対し、また中間配当を行う場合の  
中間配当金については、9月30日現在の株主に対し、ご指定の方法により  
お支払いいたします。

単元株式数  
上場証券取引所  
基準日

100株  
東京  
(1) 毎年3月31日といたします。  
(2) その他必要ある場合には、あらかじめ公告をもってお知らせいたします。

株主名簿管理人

東京都港区芝三丁目33番1号

同事務取扱場所

中央三井信託銀行株式会社  
東京都港区芝三丁目33番1号

同事務取扱所

中央三井信託銀行株式会社  
(〒168-0063)  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
電話番号(03) 3323-7111

同取次所

中央三井信託銀行株式会社 全国各支店  
日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

お知らせ

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求および配当金振込指定に必要  
な各用紙のご請求は、下記株主名簿管理人中央三井信託銀行のフリーダイヤル  
またはホームページをご利用ください。  
●フリーダイヤル 0120-87-2031 (24時間受付：自動音声案内)  
●ホームページ [http://www.chuomitsui.co.jp/person/p\\_06.html](http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html)  
日本経済新聞に掲載いたします。

公告掲載新聞

## Web Information



当社のホームページで株主・投資家の皆様に対し、企業情報や財務情報をはじめとして、積極的に情報開示をしています。最新のトピックスを随時更新し、当社の事業活動や動向を紹介しています。当社を一層ご理解いただくためにも、ぜひアクセスして下さい。

ホームページアドレス <http://www.yskf.jp/>

## 焼津水産化学工業株式会社

静岡本部 〒422-8067 静岡県静岡市駿河区南町11番1号 静銀・中京銀静岡駅南ビル6F TEL.054-202-6030 FAX.054-202-6031

本社 静岡県焼津市小川新町5丁目8番13号

焼津・団地工場 静岡県焼津市惣右衛門1195番地の4 (水産加工団地内)

榛原工場 静岡県牧之原市静谷308番地の1

大東工場 静岡県掛川市国安3000番地の1

東京営業所 東京都中央区八重洲2丁目7番2号 (八重洲三井ビル5F)

大阪営業所 大阪府大阪市淀川区西中島5丁目13番9号 (新大阪MTビル1号館9F)

名古屋営業所 愛知県名古屋市中千種区今池4丁目1番29号 (ニッセイ今池ビル4F)

福岡営業所 福岡県福岡市博多区博多駅東2丁目18番30号 (八重洲博多ビル5F)

# YSK

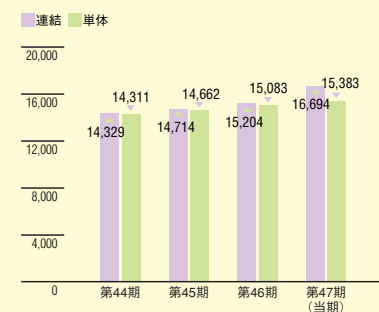
## 焼津水産化学工業株式会社

### 第47期事業報告書

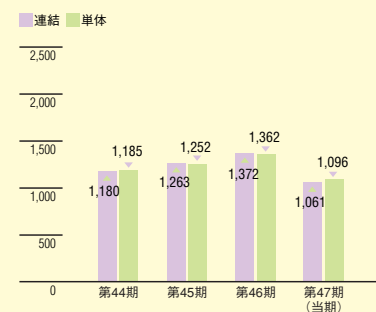
(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

# Business Report 2006

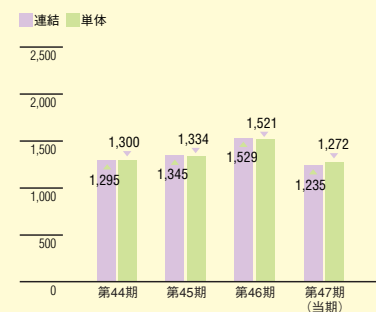
売上高 (単位: 百万円)



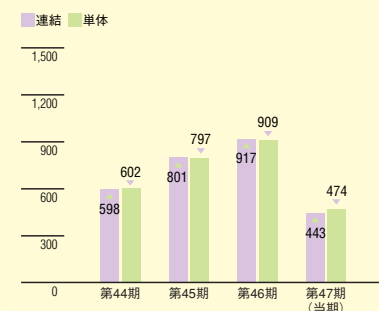
営業利益 (単位: 百万円)



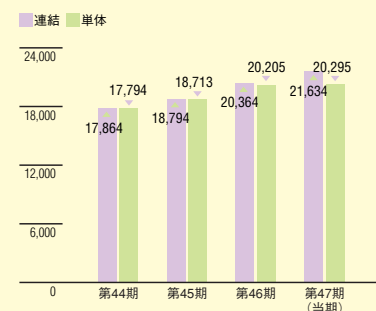
経常利益 (単位: 百万円)



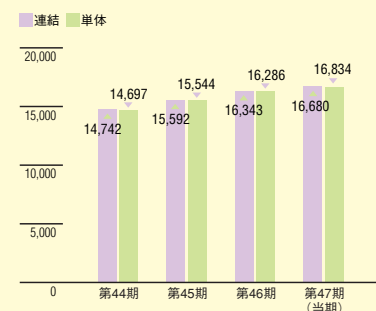
当期純利益 (単位: 百万円)



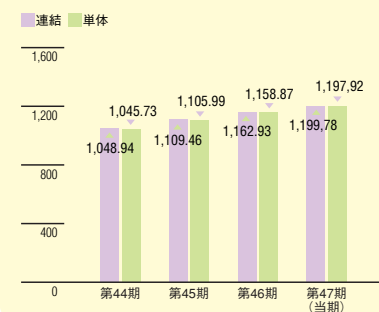
総資産 (単位: 百万円)



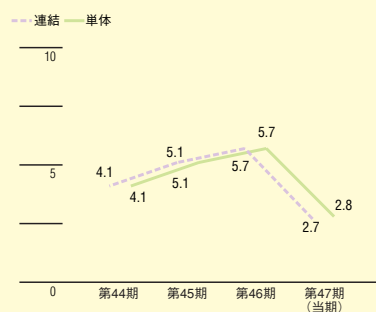
株主資本 (単位: 百万円)



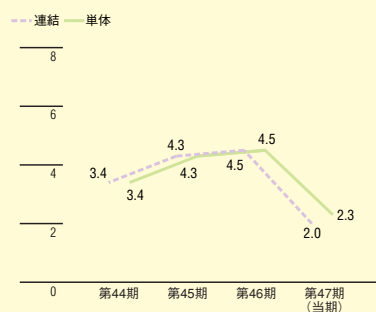
1株当たり株主資本 (単位: 円)



株主資本当期純利益率 (単位: %)



総資産当期純利益率 (単位: %)



## 食品の新たな機能を考える。

健康を維持するうえで、「自分の体は自分で管理し、自分で守る」という考え方がますます重要になってきました。当社はこれまでに蓄積した調味料技術やバイオテクノロジー技術を生かし、日常の食生活の中で健康を維持する「調味料」や「食品新素材」の開発に積極的に取り組んでいます。

## 天然素材のフィールドの中で、“おいしさと健康”を追求します。

株主の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申しあげます。第47期事業報告をお届けするにあたり、日頃のご支援に心から御礼申しあげます。

当社グループは、「3カ年中期計画」をスタートし、2期目を迎えましたが、その成果をご報告いたします。

### ①新たな海外事業への挑戦

平成16年10月、中国・大連市に100%出資の子会社「大連味思開生物技術有限公司」を設立しました。現在、建物の建設や設備の導入は一段落し、当社グループへの原材料供給を目的に、本格的な生産体制に入っております。今後は広大な中国市場を対象に、調味料および機能性食品を製造・販売する予定です。

### ②末端製品の製造・販売

平成16年10月、通信販売等を目的とした100%出資の子会社「UMIウェルネス株式会社」を設立、第1弾商品の「N-アセチルグルコサミン」、第2弾商品として「健康美飲料」の販売を開始しました。販売は順調に推移し、第1期の3月決算は当初計画を上回る売上高1億88百万円を達成しております。

また、平成17年11月、当社グループで初めての店頭販売を目的とした100%出資の子会社「株式会社ソルケア」を設立、今年3月下旬から従来の減塩醤油とは異なる醤油加工品の「おいしい低塩GABAしょうゆ」を製造して、スーパーなどの小売店での販売を開始しました。

### ③調味料事業の活性化

調味料事業は、業界全体で苦戦を余儀なくされていますが、当社グループは液体調味料の売上が減少したものの、粉体調味

料の売上が増加したため、調味料全体ではほぼ前年実績を確保できました。

取引先のニーズの変化により調味料は売上構成が変化し、粗利益は低下しました。しかし、今後はさらに積極的な新製品開発、提案営業、新規取引先の開拓などを進め、一層の活性化を図ってまいります。

### ④医療栄養食分野の充実

医療栄養食分野は取引先のニーズが高く、フル稼働が続いていましたが、一層の増産体制を整えるため、平成17年11月に大東第3工場を増強しました。これにより従来の1.5倍の製造能力となり、取引先のニーズに十分応えられる体制が出来上がりました。

大幅な投資等の影響により、採算面ではまだ厳しいものがありますが、今後はコストダウンなどに注力し、収益拡大を図る方針です。

### ⑤品質のさらなる向上

食に対する安全の意識が一層高まる中で、当社グループは平成17年5月、榛原工場内に「品質管理センター」を建設し、分散していた品質管理部門を集約しました。これにより統一した品質管理が実現し、取引先に対してより高品質で安定した製品が提供できるようになりました。今後とも一層の品質向上を目指していく方針です。



代表取締役社長

坂井和男

平成18年6月

### アンセリンの痛風予防効果を発見

当社は城西大学薬学部の和田政裕教授との共同研究で、カツオ、マグロなどの大型回遊魚の筋肉内に多く含まれている「アンセリン」に、尿酸値を下げる働きがあることを確認しました。これは、5月21日に静岡市で開かれた第60回日本栄養食糧学会で発表されました。

「尿酸」は、ステーキ、ビール等に多く含まれるプリン体を体内で燃やす時に生成される物質で、過剰に摂取すると尿酸結晶が関節にたまり、痛風の原因になります。

当社は、今回の研究でアンセリンを摂取することにより、プリン体代謝系の酵素の働きを活性化し、尿酸値を低下させることを確認しました。



### 100%出資販売子会社「株式会社ソルケア」を設立

～おいしい低塩GABAしょうゆを店頭販売～

当社で開発した「おいしい低塩GABAしょうゆ」を一般家庭向けに店頭販売することを目的に、平成17年11月29日に100%出資子会社「株式会社ソルケア」を設立しました。

この「おいしい低塩GABAしょうゆ」は、食塩量を35%カットしてあるのに普通のしょうゆと同じ風味を持つ画期的な商品です。

現在、静岡県内のスーパーを中心に販売を開始して、ご好評頂いております。今後は、首都圏、近畿、中部エリアと順次販路を拡大する計画です。



### UMIウェルネス株式会社が通販商品の第2弾を発売

～当社のN-アセチルグルコサミン、コラーゲンを配合～

当社100%出資子会社「UMIウェルネス株式会社」は、平成17年9月1日から当社のN-アセチルグルコサミン、コラーゲンを配合した「健康美飲料(けんこうびいんりょう)」を販売開始しました。

この商品は、女性の健康・美容へのニーズに応え、当社が開発した海洋性新素材の2種類を組み合わせで生み出した、マンゴー味のゼリー飲料です。4月に発表した第1弾商品の“ふしぶし健康”「N-アセチルグルコサミン」とともに、ご好評を頂いております。



### 株式会社マルミを買収し、マルミフーズ株式会社を設立

当社は、平成17年8月、焼津市で水産物の仲買、加工・販売を行っていた株式会社マルミを6億円で買収し、主な事業を受け継ぐ形で100%出資子会社「マルミフーズ株式会社」を設立しました。

同社は水産物事業として、冷凍マグロ、カツオの加工、鯉タタキなどを製造・販売します、当社グループの水産物を扱う基幹企業として、今後は態勢を整えて一層発展させる方針です。

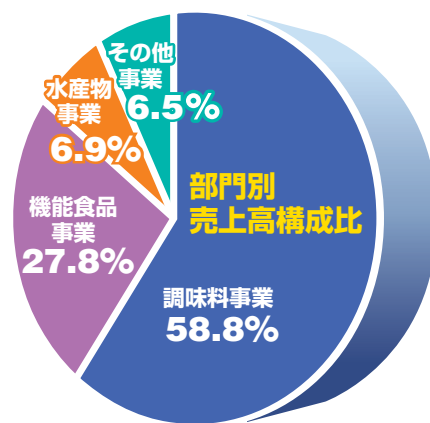


## Sales Activities

当期におけるわが国経済は、企業業績の改善や株式相場の上昇、雇用環境の改善などが見られ、全体的に景気回復の基調が色濃くなりました。

しかしながら食品業界においては、狂牛病（BSE）問題の長期化、鳥インフルエンザの影響をはじめ、消費者の“食の安全”に対する意識がますます高まり、品質管理、品質保証を一段と強化する必要に迫られている状況です。これがコスト上昇の要因ともなり、総体的に減収となる企業が目立ちました。

また、少子高齢化や消費者の食に対するニーズの変化により、業界全体では引き続き厳しい状況が続いております。このような中で、当社グループは「3ヵ年中期計画」の実施2年目に当たり、重点施策を推進してまいりました。第48期は中期計画の仕上げの年となりますので、グループ一丸となってその達成に取り組めます。



### 水産物事業 | 水産物の加工・仲買

「水産物事業」は、マルミフーズ株式会社の設立諸経費が嵩んだこと、魚価安が続いたこと、および原油の高騰による一部契約船の廃止などから、売上高は当初予算を下回る11億57百万円となりました。



### 調味料事業 | 液体調味料・粉体調味料

「調味料事業」部門は、消費者ニーズの多様化、低価格品との競合に加え、加工食品メーカーにおける内製化など全体に厳しい営業環境下にありました。この中で、液体調味料が減少したものの、粉体調味料の売上が増加したため、売上高98億6百万円（前期比93百万円、1.0%増加）となりました。



### その他の事業

「その他事業」は、わさび・生姜等の小袋の需要が伸びず、新製品もなかったことにより、売上高は10億81百万円（同87百万円、7.5%減少）となりました。



### 機能食品事業 | グルコサミン・オリゴ糖類・コラーゲン・アンゼリン

「機能食品事業」は、グルコサミン類等のファイン製品が一時的に減少する中で、レトルト（医療栄養食）の売上増が貢献し、全体の売上高は46億47百万円（同3億25百万円、7.5%増加）となりました。



以上の結果、当期の総売上高は166億94百万円（前年比14億89百万円、9.8%増加）となりました。

収益につきましては、材料費の上昇や燃料費の上昇を販売価格に転嫁させることが難しいことや、売上構成が変化して売上増の品目が低収益部門に偏ったことなどにより、営業利益10億61百万円（同3億10百万円、22.6%減少）、経常利益12億35百万円（同2億93百万円、19.2%減少）、当期純利益は当期より「固定資産の減損に係る会計基準」を適用して6億35百万円の減損を行ったため、4億43百万円（同4億74百万円、51.7%減少）となりました。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第46期 (平成17年3月31日現在)	第47期 (平成18年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	3,088	2,671
受取手形及び売掛金	3,860	4,089
有価証券	168	64
たな卸資産	2,178	2,847
繰延税金資産	92	76
その他	74	269
<b>流動資産合計</b>	<b>9,461</b>	<b>10,019</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	2,265	2,662
機械装置及び運搬具	1,551	1,860
土地	2,620	2,377
建設仮勘定	14	9
その他	85	117
<b>有形固定資産合計</b>	<b>6,536</b>	<b>7,027</b>
<b>無形固定資産</b>		
無形固定資産合計	90	76
<b>投資その他の資産</b>		
有価証券	3,845	4,163
繰延税金資産	121	—
その他	314	324
貸倒引当金	△ 5	△ 5
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>4,275</b>	<b>4,482</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>10,902</b>	<b>11,585</b>
<b>繰延資産合計</b>	<b>—</b>	<b>29</b>
<b>資産合計</b>	<b>20,364</b>	<b>21,634</b>

(単位：百万円)

科 目	第46期 (平成17年3月31日現在)	第47期 (平成18年3月31日現在)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	1,666	1,882
短期借入金	—	280
一年以内返済予定長期借入金	210	303
未払法人税等	394	62
未払消費税等	24	14
賞与引当金	103	119
その他	468	460
<b>流動負債合計</b>	<b>2,867</b>	<b>3,123</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	360	1,180
繰延税金負債	—	29
退職給付引当金	238	236
役員退職慰労引当金	521	184
連結調整勘定	23	9
その他	11	10
<b>固定負債合計</b>	<b>1,153</b>	<b>1,651</b>
<b>負債合計</b>	<b>4,021</b>	<b>4,774</b>
<b>資本の部</b>		
資本金	3,617	3,617
資本剰余金	3,414	3,414
利益剰余金	9,039	9,188
その他有価証券評価差額金	275	643
自己株式	△ 2	△ 3
<b>資本合計</b>	<b>16,343</b>	<b>16,860</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>20,364</b>	<b>21,634</b>

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第46期 (自平成16年4月1日から 至平成17年3月31日まで)	第47期 (自平成17年4月1日から 至平成18年3月31日まで)
売上高	15,204	16,694
売上原価	11,844	13,309
売上総利益	3,360	3,385
販売費及び一般管理費	1,988	2,323
<b>営業利益</b>	<b>1,372</b>	<b>1,061</b>
営業外収益	169	197
営業外費用	12	23
<b>経常利益</b>	<b>1,529</b>	<b>1,235</b>
特別利益	6	340
特別損失	32	847
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>1,502</b>	<b>728</b>
法人税、住民税及び事業税	619	364
法人税等調整額	△ 34	△ 80
<b>当期純利益</b>	<b>917</b>	<b>443</b>

連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科 目	第46期 (自平成16年4月1日から 至平成17年3月31日まで)	第47期 (自平成17年4月1日から 至平成18年3月31日まで)
<b>資本剰余金の部</b>		
資本剰余金期首残高	3,414	3,414
資本剰余金期末残高	<b>3,414</b>	<b>3,414</b>
<b>利益剰余金の部</b>		
利益剰余金期首残高	8,400	9,039
利益剰余金増加高	917	443
当期純利益	917	443
利益剰余金減少高	278	294
配当金	252	267
役員賞与	26	27
<b>利益剰余金期末残高</b>	<b>9,039</b>	<b>9,188</b>

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	第46期 (自平成16年4月1日から 至平成17年3月31日まで)	第47期 (自平成17年4月1日から 至平成18年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,304	231
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,111	△ 965
財務活動によるキャッシュ・フロー	77	224
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	6
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	272	△ 503
合併による現金及び現金同等物の増加額	37	—
現金及び現金同等物の期首残高	2,058	2,368
新規連結に伴う現金同等物の増加	—	82
現金及び現金同等物の期末残高	2,368	1,948

貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第46期	第47期
	(平成17年3月31日現在)	(平成18年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	9,406	9,394
固定資産	10,798	10,901
有形固定資産	6,257	6,218
無形固定資産	86	73
投資その他の資産	4,455	4,609
資産合計	20,205	20,295
<b>負債の部</b>		
流動負債	2,813	2,333
固定負債	1,105	1,128
負債合計	3,919	3,461
<b>資本の部</b>		
資本金	3,617	3,617
資本剰余金	3,414	3,414
利益剰余金	8,981	9,162
株式等評価差額金	275	643
自己株式	△ 2	△ 3
資本合計	16,286	16,834
負債及び資本合計	20,205	20,295

損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第46期	第47期
	(自平成16年4月1日から 至平成17年3月31日まで)	(自平成17年4月1日から 至平成18年3月31日まで)
売上高	15,083	15,383
売上原価	11,802	12,263
売上総利益	3,280	3,120
販売費及び一般管理費	1,918	2,024
営業利益	1,362	1,096
営業外収益	171	191
営業外費用	12	14
経常利益	1,521	1,272
特別利益	6	340
特別損失	32	847
税引前当期純利益	1,495	764
法人税、住民税及び事業税	617	367
法人税等調整額	△ 31	△ 77
当期純利益	909	474
前期繰越利益	302	334
中間配当金	112	126
当期末処分利益	1,099	682

利益処分

(単位：百万円)

科 目	金 額
当期末処分利益	682
固定資産買換積立金取崩額	3
計	685
これを次のとおり処分いたします。	
利益配当金 (1株につき普通配当9円)	126
役員賞与金 (うち監査役賞与金)	( 2)
別途積立金	300
固定資産圧縮積立金	31
次期繰越利益	204

(平成18年3月31日現在)

- 会社が発行する株式の総数 24,600,000株
- 発行済株式の総数 14,056,198株
- 株主数 9,387名

(注) 右記信託銀行の持株数には、信託業務に係る株式が次のとおり含まれております。

日興シティ信託銀行株式会社	310千株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	281
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	236

● 大株主（上位10名）

株主名	当社への出資状況		当社の当該株主への出資状況	
	持株数	出資比率	持株数	出資比率
宝ホールディングス株式会社	956千株	6.8%	308千株	0.1%
日本油脂株式会社	902	6.4	753	0.4
株式会社静岡銀行	678	4.8	203	0.0
鈴木ミツエ	542	3.9	—	—
株式会社りそな銀行	478	3.4	—	—
松本圭一郎	323	2.3	—	—
焼津信用金庫	321	2.3	12千口	0.0
日興シティ信託銀行株式会社	310	2.2	—	—
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	281	2.0	—	—
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	236	1.7	—	—

Corporate Data

(平成18年3月31日現在)

- 商 号 焼津水産化学工業株式会社
- 事業内容 天然調味料および機能性食品製造販売
- 資本金 36億1,764万円
- 設立年月日 昭和34年3月18日
- 創業年月日 昭和34年5月15日
- 取引銀行 りそな銀行東京営業部／静岡銀行本店営業部／農林中央金庫静岡支店
- 社 員 238名（男性196名 女性42名）
- 機 械 設 備 営業、事務部員：88名／研究開発部員：30名／製造部員：120名  
各種乾燥装置／減圧濃縮装置／各種粉碎装置／各種抽出装置／  
各種殺菌装置／各種造粒装置／混合機／ドラム乾燥装置／  
噴霧乾燥装置／連続減圧乾燥装置／アミノ酸製造装置等
- 重要な子会社の状況  
会社名：オーケー食品株式会社  
資本金：5,000万円（100,000株）  
当社の議決権比率：100%  
主な事業内容：香辛料の製造  
会社名：マルミフーズ株式会社  
資本金：5,000万円  
当社の議決権比率：100%  
主な事業内容：水産物の加工・販売  
会社名：大連味思開生物技術有限公司  
資本金：350万米ドル  
当社の議決権比率：100%  
主な事業内容：天然調味料及び機能性食品の製造・販売  
会社名：株式会社ソルケア

資本金：5,000万円  
当社の議決権比率：100%  
主な事業内容：醤油、塩、米を主原料とする加工食品ならびに調味料の販売

会社名：UMIウェルネス株式会社  
資本金：5,000万円  
当社の議決権比率：100%  
主な事業内容：健康食品・機能性食品の通信販売および輸出入

■ 役員（平成18年6月27日現在）

代表取締役社長：坂井和男  
代表取締役専務取締役：高橋誠一  
常務取締役：山本和広  
常務取締役：酒井尚吾  
取締役相談役：松本圭一郎  
取締役：高橋英之  
取締役：伊藤正次  
取締役：萩原 諭  
取締役：齋藤 滋  
常勤監査役：石黒厚士  
監査役：加藤啓介  
監査役：田中 浩  
監査役：澤本猪三雄